

2022年6月8日(水) 18:30-21:00

令和4年 第一回区民版子ども・子育て会議

参加：リアル 名/オンライン 名

区民版のはじまりについて 松田から説明

計画を作る年の前の平成26年に11回開催

3回目くらいから世田谷区と共催

区民版で話し合ったことを学会を2回ほど開催

コロナになってからオンライン開催

11月にハイブリッド開催し、今回もリアル開催とのハイブリッド開催

立場を超えて、所属を超えて、子どもに関わる様々な人と一緒に立場を超えて話し合う場。要望する場ではなく、対話するのが唯一のルール。組織を背負って発言する必要もなく、お互いの見えている景色を共有する、何かを決める場ではない。一人一人の意見が貴重。

今日のゲストは一般社団法人ジェイスの武田信子さんです。タイトルは「子どもの姿が見えるメガネを手に入れよう」で、素敵なタイトルも武田さんが考えてくれました。

世田谷区はいち早く子ども条例を作られた自治体ですが、その見直しをしていたり、こども家庭庁、子ども基本法もしっかり位置付けられましたし、子どもの権利も法律に位置付けられたり、短時間に一気にいろんなことが子どもに向いてるけれど、地域で身近にやっている私たちの見ている姿や感じていることとかが、そこにどういう風に関わったり、根付いたりしているのかな、みたいなことをもう一回見直したり、見ている景色が違うので、一緒に勉強できたらと思います。

これは区民版でなくても勉強会としてやっていきたいと思っていることです。まずは武田さんとワークして、頭の中をグジャグジャにしてもらおうと思います。今日はスッキリと帰れないと思います。

なかなか会えない部長さんがいらしているので、計画づくりや条例に関して、期待のほどをお願いします。

★子ども・若者部長の柳沢です。

世田谷区は前から子ども基本法は持っていますが、子ども基本法が国にもできて、国レベルでも、都でも区にもあり、ちゃんと運営されているのか皆さんに点検していただいて、よりよくなっていくためにはどういう風にしていけるか、いろいろお知恵をいただければと思

っています。

松田) 区民版の第一回は区の新任の方がいらっしゃるの顔の見える第一歩でご紹介します。

★4月に子ども若者部に着任した島津(しまつ)と申します。

皆さんの活動には区として感謝申し上げます。子ども条例20周年の記念の年なので、皆さんと活発な議論とお話を伺えたらと思って楽しみに参りました。本年度も引き続き皆様のお力添えをいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

★教育委員会の乳幼児教育保育支援課長をしております本田と申します。

保育部の副参事も兼務させていただいて、昨年の12月にできた教育総合センターの中で乳幼児教育保育新機能というセンター。今は若林に職場があり、徐々にちっちゃい子どもたちが教育総合センターに来ていただいて、毎日絵を描いたり工作したり、また親子でそこで皆で遊んでいただいているような状況で、ハイハイできる場所もあるので、毎日いい職場だな、と思いながら勤務している状況です。

私も実は新任ではなく、3年目なんです。コロナがあって、実際に来れなかったり予定があったりしたのですが、今日は皆さんとお話させていただきたいと思います。

★4月から子ども家庭課長となりました小松です。

ひろばであったり、エリアであったり計画でもお世話になるかと思いますがよろしく願いします。

★教育政策部の井本と申します。

前任は京西小学校の副校長をしていたので、子どもと近いところにいました。その経験を生かして教育委員会でも頑張っているところです。好きな食べ物はラーメンです。

★大多和と申します。ひろば担当をしています。

まだ3か月です。よろしく願いします。

烏山子ども家庭支援センターから、世田谷の子ども家庭支援センターに異動してきました。今は、世田谷のひろばをひとつずつまわらせていただいて、いろいろ状況を伺ったり、遊んでいる様子を見させていただいているのですが、ひろばの支援のありかたや考え方が素晴らしいなと思っていて、私どもも学ばなければと改めて思っているところです。引き続きよろしく願いします。

★玉川の子ども家庭支援課長の小林です。

以前は北沢の子ども家庭支援課でした。私も玉川のひろばをちょっとずつ見させていたでいます。初めて行った時に、松田さんが地域のお母さんたちにさらしのおんぶの講習を見て、松田さんも働いているな、と、災害時にもちょっとしたひもでも赤ちゃんを負ぶえて必要なことだと使えるので大事なことだと、地道な活動に感動しました。皆さんと顔を合わせながら地域の子育て力をUPさせていきたいです。

★打越です。児童相談専門員です。

東京都の児童相談所に長くいて、退職後世田谷でお世話になっています。世田谷に参りまして、世田谷の子育て支援にこんなこともあんなこともできるのか、とびっくりしました。

★（オンライン参加）保育課長の伊藤です。

4月から保育課長をしています。保育の待機児童が3年連続ゼロということで、区立のおでかけひろばとか在宅の子育て支援も力を入れていくということで、今後ともよろしく願います。

★教育委員会の知築と申します。

秋に若者とワークショップを開催するので、興味ある方はぜひよろしく願います。

松田) まだまだ紹介したいところですが、あとはグループで願います。区民版は行政の人は異動されるので、毎回、来てくださった方をご紹介しながら進めています。

子どもの権利のところ、世田谷でも権利のことを勉強しようと一般社団法人ジェイスの武田さんをご紹介します。

武田) 今日のタイトルは「子どもの姿が見えるメガネを手に入れよう」です。

今日の午前中は、梅ヶ丘でうめとびあひの養護施設で話を聞いて、家にはいられない子どもたちがいる施設の話聞いてきました。今日は、世田谷区全体の子どもたちがどんな風なのか、子育てがどうなっているのか考えたい。養護、とりわけ貧困に焦点を当てるのではなく、ごくごく普通の子どもたちが世田谷区でどんなふうで育っていて、普通の親御さんたちがどのように子育てしているのかを考える時間にしたいと思っています。

「子どもの姿が見えるメガネを手に入れよう」とありますが、メガネを差し上げません。終わった後相当努力しないとそんなメガネは手にはいきません。手に入れようという気持ちになって帰ってもらおう、そこまで思っています。

私は大学の教員をしていましたが、コロナが始まる2年前に大学を早期退職して、一般社団

法人ジェイスを立ち上げて、日本・子どもの養育環境とマルトリートメント：子どもに不適切な扱い、対応を予防しましょう、そのための具体的なアクションを考える、という法人を立ち上げました。ビジョンはHPを見てください。

予防のためのアクションを起こすには、子どもが生まれた瞬間に当然持っている当たり前の「RIGHTS」に焦点の合うメガネがまず必要です。

それがどういうものか、というのを知っていく必要があります。挨拶された方のなかに子ども家庭に関する状態が変わってきましたという話もあったけれど、絵にかいた餅にならないようにするにはどうしたらいいのか？そもそも大人は子どもたちにとってどんな存在か。

世田谷区の子どもたちが0才から18才まで約13万5千人。すべての子どもと簡単にいいますが、これだけの子どもたちが、ウェルビーイング（身体・精神・社会的に満たされた状態）にしようというのはとんでもなく大変なことだと思います。

どういう状態なのかみえなければ対応ができません。アクションができません。子どもたちがどういう状態なのか、子どもたちの発達はどういうことを学んでいただきたい。

世田谷の子どもたちは3つの健康：ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的な良好な状態）ができているかを考えたい。

戦争はない…ですが、受験戦争という言葉がかつてありました。最近は言わなくなっていますが、東大で若者が殺傷する事件がありました。人の命にかかわることが起きるほど受験がいろんところでかぶさってきます。

飢餓はないといいますが、子ども食堂やパントリーがあります。豊かな日本で飢餓な子どもたちがいるということです。

地雷や浮浪児がないかというと、歌舞伎町にはたくさん子どもたちが出てきているし、交通事故というのがあります。街中に歩いていたら当たるかもしれない。死ぬかもしれないという状況。

児童労働や搾取はないと言われていますがヤングケアラーという言葉も出てきています。学校教育に関しては20万人学校に行けていない。識字率が高いと言われていたけど、実はそういう事が起きている。

災害という事では、原発や土砂崩れなどもあります。

基本的人権の尊重ということでは、いろんなことがいえるけど、日本は世界一睡眠時間が大人も子どもも短いです。子どもたちから睡眠を奪うということは人権侵害です。

ということが、ごくごく当たり前に行われています。

世田谷区の自殺対策基本方針（令和元年10月4月）をネットで調べたのですが、自殺者の年齢構成：20歳未満、20歳代の割合では全国水準を上回っている。20・30歳代女性の約半数が「これまでに1度でも死にたいと思ったことがある」と回答しています。20代でそういうことがあるということは、生まれてから20歳までの間どんな生き方をしてきたの？20歳を超えて死にたくなったということではないと思います。世田谷区の子どもたち、この5年間で38人から57人と20人くらい子どもたちの自殺が増えています。

この5年間にいったい何が起きているのだろう？
どうして？

なんで子どもが学校の始まる日に自殺するの？当然学校に何か問題なければ、そんなこと起きないわけですよ。
なんで子ども食堂が必要なの？

どうして大人になっても投票しないの？参院選行かれますか？すごく低いですよ。デンマークは投票率85パーセント切ったことがないんですよ。なんで日本は低いのか。子どもの頃から-言っただって仕方がない、変わらないということをずっと学習してきたら18になっても投票しようという気持ちにならないだろうと思います。

居場所が欲しいからスマホ。ウェルビーイングに育ってきた人たちと言えますか？

子どもの権利というのは、かわいそうな子どもたちの権利条約と学校で教えたりしますが、ごくごく普通の子どもたちの権利が日本の社会で侵害されている可能性があるのではないかいという目でみていく必要があります。かわいそうな特殊な状況の子どもたちの権利が侵害されていると思われがちですが、ごくごく普通の世田谷の13万5千人の中でそういう状況が起きていると考えられるだろうと思います。

「RIGHTS」当然求めていいこと、「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」この4つに大きくまとめられると言われてますし、SDG'sの中にはいっています。

今日はその中でも「育つ」に焦点を当てて話したいと思います。「持って生まれた能力を十分に伸ばして成長できる」に焦点を当ててお話ししたいと思います。

大人たちは子どもたちのために、と言うが、大人が子供に暴力をふるうと「体罰」と言われていました。子どもが大人に暴力をふるうと「校内暴力」と呼ばれていました。ここに権利の違い、権力の違いがありますよね。

「宿題」は「残業」ですよ？違いますか？

アフリカの人がたくさんはっている国際的な教育の会議がありますが、「塾」を「裏の教育」と皆さんが言っていました。フィンランドも学校教育の中でテストの結果をだしている。日本は塾とか宿題とか全部含めてあの結果なんです。そこを無視していて、学校教育の中で日本の学力できていると思っていますが、それ違う、残業です。

本当は子どもたちは学校が終わった 15 時になったら解放されて家や外で楽しく遊べるはず。その時間が全部なくなっちゃったというわけです。

「しつけ」という名前の「強制」もなされているし、「安全」といいながら外に出たら自由に走り回ってはいけない、手をつないでいないといけないとお母さんが怒られたりするけど、私が子供の頃は 2 才や 3 才の子供はひよろひよろ歩いていても近所のおばあちゃん、おじいちゃんがひろってくれる道路でした。そんな道路がなくなっちゃっている。これって人権の問題ではないですか？

実際、どうなっているかというと、世田谷の日体大の野井先生の「子どもの体と心のクライシス」では、1970 年代からの 40 年にわたる研究結果ですが、今の日本の子どもたちは虐待を受けている子どもたちと同じ身体症状を呈していると言われていています。具体的な統計に関しては、12 月第一日曜日に毎年統計を解説してくれる日があるので、ぜひ参加してください。様々な身体的状況は年々悪化しているのがみえます。

アレルギーは 1979 年 5.4 パーセントだったのが、2015 年に 75.4 パーセントになっています。子どもたち確実に変わっています。取り囲まれている環境も変わってれば育ちも変わっています。アレルギーを広げてしまったのは誰がどう責任をとるのでしょうか？皆でなんとかしないと子どもが生まれてくるのがかわいそうではないですか？これ見たら若い夫婦自分の子供産めなくなりますよね。

何が起きているのでしょうか？

例えば、赤ちゃんを長時間前が見えない状態で抱っこしていたら視覚で情報を得ることができません。目から得る情報はものすごくたくさんなのに、布をかぶせてしまったり、前し

か見えない状態でいると、子どもは身体をそらせたりして、好奇心があればあるほど、背中が湾曲した子どもになってしまう、そういう扱いがごく当たり前になっているけど、それに対して誰もどこも何とも言わない。2014年からfacebookでもいろいろ書いていますが赤ちゃんはせめて前が見えるようにしてあげてほしいと思うわけです。

大人が子供に対して気が付かずにしているマルトリートメントに、まず気が付いて、予防していかなければならないと私は思っています。

これは親が悪いとか[教育虐待]という言葉も私が言っているとなっていますが、私は最初から[教育虐待]という言葉は使いたくないと言っています。それは親が悪いとやや思われてしまうから。先生が悪いと思われてしまうから。教室のマルトリートメントと言ってしまうと、学校や先生が悪いと思われているが、バックグラウンドに社会全体が子どもたちに対して理解しないでやっているためにマルトリートメントを起こしている。それがいいと思ってやっているから、もうちょっとよく知るしかない。

皆子どもを良く育てたい、育てなければならない、その責任は親にある、学校の先生にあると、皆プレッシャーを感じています。大人がプレッシャーを感じています。

前だったらごろっと転がしていたら、村の誰かがみていてくれるという社会だったら親の責任はない。でも、今は一対一で親が子となると、親の責任、学級崩壊おきましたとなると先生の責任、そんなことが起きている。そういう状態になっていることが大人を苦しめている。子どももそれによってプレッシャーをかけられ、それによっていろいろな問題を起こしています。国連の子どもの権利委員会は日本に対して1998年から6年に1回、日本の過当競争が子どもたちをこういう状態にしていると言っているが日本政府は証拠がないという回答。2016年から報道されるようになりました。立身出世がいいよ、というが、それが幸せかという立身出世した子どもたちも精神的に参っている人はやまほどいました。子どもたちは大人は幸せそうでない、嘘もついていると見えています。

家庭と社会でどちらにしてもマルトリートメントが起きていて、特に教育に日本ではおきがちで、全体社会でマルトリートメントが起きていると言いました。教室マルトリートメントを私が言い始めた2011年は、皆さんキョトンとしていました。教育委員会でもわかっていませんでした。段々気が付き始めた人も増えています。

今、日本では教育の状態が悪いのではないかと書いたのですが、子どもの将来が心配だから、と子どもをいい高校、大学、就職していい年金を心配しないで生きていけるようにしたい、親だったら当然の事だと思いますが、そのために今を犠牲にしてがんばれと言って、1年間

で 500 人自殺しています。

子どもたちが言いたいことを言えていたら、子どもの表現する権利があったら言える。

世界幸福度ランキングを見てみると軒並み北欧や北欧に近い国が高い。

国家間格差が大きくて、生まれた国で子どもの幸福度が変わるなら、そっちの国に生まれた方がいい。でも日本を変えるしか仕方ないでしょ？社会的なマルトリートメントを世田谷から予防してみましょう。私たちはどんな価値観をもっているのかを考えていかないとならない。私たちが持っている価値観を、実態を明らかにしていくことが必要。

私たちがやっていることマルトリートメントでないの？という視点から子どもたちに起きていることを見直す、もちろんポジティブな目で子どもたちを見るのは大事だし、それと同時にもしかしたら・・・という目で見えるのも必要です。書いてる私自身も自覚してなかったマルトリートメントをいっぱいやってきたなという事が、書いている最中、本を書いた後にもあります。

問題の対応と予防ということで、意識啓発や法律の制定は防止には役に立つけど、苦しんでいる子どもたちへの対処もあるけど、それでは間に合わない、予防しないと。子育てに関する価値観を問い直すとか、人権意識を変えるとかやっていかないといけない。

大人たちは健康に育つ、発達すると簡単に言いますが、育つとは「体」が育つ、「心」が育つ、「脳」が育つ、と3つあるだろうと思います。3つの面から考えていきたい。

最初のワークは現状を把握するという事です。

子どもたちの姿をジェイスのメガネ。これってどういう事なんだろう？丁寧に、これポイントだと思ったメガネで見て話していただきたい。練習なので、そんなにうまくいかない、今日完璧にわかるとはできないと思います。1グループ5人で、集まった皆さんで何歳をやりたいと考えて、身体、心、脳がどういう風に発達しているかと考えていただきたい。

例えば0才

自然に手足が動いてしまう。目に入るとなんだこれは？となる。努力して動かしていると筋肉がついてくる、自分で動かせるようになる。親の身体の中から出てきたので、どこからどこが親か自分かわからない状態から始まる。そういう状態から親と自分が違うという発見がある。自分が行動すると、自分と別物が動き始める。喜ぶと大人も喜ぶ。泣くと抱っこしてもらえると気が付く。コミュニケーションが始まる。

自分と他の人が違うと理解できる。

手を前で誰かが合わせてあげると、自分の手は自分の思ったように動かすと面白い。他人の手は自分が思っても動かさない、脳の神経で自分をコントロールすると覚える、ってすごくないですか？

0才の1年間で脳の何割かができる、そのくらい発達している。

身体が発達することで心が発達し、脳が発達する。それを言語で表現できない。大人はその発信している言葉を聞き取る力がないだけ。この頃に脳をやられてしまうと精神的に大変なことが起きて、虐待を受けると脳の損傷になり、辛い人生を送ることになる。自分でも落ち込むときにいいがたい感覚がある場合は、嫌な体験と結びついているからではないかとも精神分析では考えられている。その時心はどうなっているのか？脳はどうなっているのか？

(赤ちゃんの写真) この子は9か月ですが、真剣に何が起きているのか見ていますよね。本当に必要な時はこういう表情をします。子どもの様子がみてとれる保育士さんは泣いている赤ちゃんを抱っこすると赤ちゃんが泣きやむ。赤ちゃんの要求に自然に応えるので赤ちゃんは泣きやむ。

思春期はどうでしょう。第二次性徴期で隣の女の子が気になる。心がドキドキする。他者を意識し始める。異質なものに憧れたり、努力したり、鏡見たり、知的に理解してイライラや不安をなんとか処理しようとする知的変化も起きるし、中2病も起きたり。心理学だけ勉強していてもダメで、身体と脳の関係が分からないと子どもの発達はわからない。

こういう事がある程度わかっている人が増えないと、皆でこういう目が必要だよ、と思うことをやっていただきたい。

0才、1才、2-3才、4-5才、6-7才、8-9才、10-11才、12-13才、14-15才、16-18才でグループを作る

<40分グループワーク>

最初に申し上げたようにこのワークはそんなに簡単にできるものでもなく、ポストイットでだしていくのが精いっぱい、つなげていくという発想を持ったことがないかもしれない。関連付けたことがないかと思います。身体が発達して心が動く、脳が動くわけです。

親に反抗しはじめるようになってくるのはちょうど思春期だよ。それはなぜ？とまず考えてみてください。何らかの発達状態があるわけだから。それはなぜ？他には？本当に？と

どんどん問いかけていく。中2になると反抗期や中2病になるという言葉で理解していますが、身体が変化してきて、親よりも大きな身体になってきて、親に殴られていたのが、殴ったら親より強くなるかもしれない自分の身体を持って余しながら、どうしよう、自立していききたいけど、まだ甘えてもいたい。不安な中で生きている時期。自立期と何十年か前から言っています。バックグラウンドにその子たちの身体の発達や心の発達がどうなっているのか考える。どう処理する力がついてきたのかを考える。これを丁寧に丁寧にまず理解することがあったうえで、子どもたちの声を聞くと、「先生むかつくんだ」とその年齢で言っている「むかつく」ということの意味が私たちに違うかたちで受け止められるようになってくるし、相手の言っていることを聞かないと本当のところはわからないよね。という気持ちにどんどん私たちがなっていけるだろうと思うわけです。

私たちは自分が子どもであったから、そのような発達が分かった気になっているけど、実は全然わかっていなくて子どもの声を聞くと簡単にいうけど、そう簡単には聞けないんだ。そしたら本人たちに、それはどうして？と確認していく以外にないんです。

アドボケイトのカナダのナンバーワンの方が言っていたのは、代弁なんてしない、彼らが言った言葉をそのまま書き留めていく。その言葉をちゃんと政府に届けると言っていました。大人はそんなに簡単に子どもの声を代弁できない。

今、どんな話をしているのかグループに聞いてみましょうか。

<6-7才グループ>小1くらい

<身体>

小学生になって環境が変わる。起きる時間が長くなる、お昼寝が無くなる。食事の量が増える。ボールを投げたり、鉄棒の前回り・後まわり、でんぐり返し、ジャンプができたり、高いところに登るようになる体の変化、自転車が一人で乗れるようになる

<心>

集中する力、背伸びしたい気持ち、新しいことに挑戦、やりたいと言える行為とやってもらいたい気持ち、周囲の目が気になるようになる、食事の好き嫌いが入ってくる

<脳>

時間の概念が分かってきて明日の事を考える、記憶に残る、明日と今日で遊びたい人を考える

(武田)

色んなことができるように体がなってきた、ひととおり大人ができるようなことができるようになってくる。学校で他の子どもたちと勉強が始まり、背伸びをしたり、周囲の目が気

になる。給食がはじまると好き嫌いがあるけど、家庭なら好きなものを食べられるけど、給食だと皆が食べているものを食べられるようにならないといけないと考えるということをしなないといけない。

学校に入ることによって、脳で処理することは隣の人と比較。

他者との比較がかなりはっきりでてくる → 比較することは脳が発達すること

思春期と同じようなことだけど、新しい世界に入って社会性がひろがることを自分でやっていかないとけない。逆に困難にもつながって、親から離れないといけないから、やってほしい時に担任は一人しかいない、担任に親みたいにくっつくこうとするわけです。皆がライバルになっちゃう。この時に発達障害系の子どもや大変な子どもたちをみるのに一人では無理と学校の先生たちは言っているわけです。

幼児期にコミュニケーション能力を身に着けていて、たくさんの兄弟の中で育った子たちは小学生になってもそんなにギャップはなかった。家庭の中で一人っ子で、全部なんでも家でやってもらっていた子が小学校に入って、担任一人という状況では無理になってしまう。だから小さい時から保育園や幼稚園に行った方がいいという人もいるし、地域でいっぱいいろんな子供のいる中で育ってないと急にそんなことしても無理だよ。それが幼稚園でいいのか、保育園でいいのか、それとも地域の中にいろいろあるのがあるのか。

そういうことを世田谷区ではどうするのか？と考えていかないとけない。

こういうことを考えていって、では子どもたちの24時間を世田谷区でどんな風に生活しているの？その環境はその子のその年齢の身体を発達を保障するような状態になっていっているのか、というのを一人で考えても無理なので、多くの人たちで議論できるようになっていくことが必要だよ、ということです。

< 8 - 9オグループ >

小2 ~ 小3 くらい

< 身体 >

体力が向上する、ランドセルに耐えられる、手先が器用になる、良く食べる、遠くまで自転車に乗っていける、

< 心 >

一人でやってみたいと思う、自分に自信がつく、大人を試す、意外と寂しがり、うまくいかないことがあるとまだ泣く、サンタクロースを信じている、先生が好き、縄張り意識、兄貴分の気持ちも学童の中であるが年上の人へのあこがれもある

<脳>

口が達者になる、生活の授業（理科、社会）難しい授業や辞書を調べることを求められる、抽象的な思考

（武田）

これをつなげることを考えてみてもらいたい。

自転車にあちこちに乗っていけるような身体発達の時に、世田谷区は子どもたちが自由に乗っていける道路事情でしょうか？ 親は心配でやめるように言うでしょう。自転車でなくても、野山をかけめぐる体力や身体が発達が本来あるのに、どこで発揮できるでしょうか？ 体育館？ 校庭？ 学校終わった後も学童保育は学内。それでは子どもたちの発達は保証されているのでしょうか？

手先が器用になったのが生かすような機会はあるのでしょうか？ 料理、裁縫は昔の子どもたちはたくさんやっていました。今、図工は同じ教材セットが渡される。材料を家から持ってくるように言われますか？ 手先の器用さを使えるようにする時間があるのでしょうか？

その時間を保障しているのでしょうか？ 宿題をやらないといけなくていっぱいいっぱいになっていて、手先の器用さを児童館などで、新しいことを教えてもらおうという時間があるのでしょうか？ それができないと脳の発達に限界がでてきてしまうということです。

抽象的な思考や難しい勉強とあるけど、これができない子たちは他で発達する場がどこにあるのだろうか？

口が達者になると、大人の思考についていけて、言い返せる力がついたということですが、学校では「生意気」と言われて、押さえつけられていないかと考えていく必要がある。

自信がついていく、大人を試すこの時期、でも寂しがりだったり、泣く微妙なこの時期にグループになった時、もう少し上（9才、10才）だけど、ギャングエイジと言われる子どもたちが秘密基地を作り、自分たちで失敗しながらいろいろなことができる時期なのですが、今はギャングエイジという言葉が無い。ギャングになれなくなっている子どもたちがいるわけです。これってどうなんだろう。大人を試しながら自分も試されて、友達関係の中で、いろんなこと：友達にいじめられたり、いじめたりもあったけど、他の世界もたくさんあったが、今は学校の中だけで、逃げられる世界もない中で生活している小学校2、3年生の子どもたちがどういう思考を身に着けて4年、5年生になるのだろうか？ ということです。

世田谷区の子どもたちは、それぞれの年齢、学年で本当に社会的に発達するために必要なことは24時間のどこで身につけているのでしょうか？

どこでこの年齢の子どもたちが十分に発達しなくてはならないことを発達させて次の学年に移っているだろうかということを見ないと、この小学生が5年生、6年生になったきた時に大人との関係がうまくいってなくて、いじめがひどくなる、しかとする、ということがある。それらの起きる原因は恐らくこのぐらい（小1~2）からだんだん始まっていて、社会性が発達していないまま、5~6年にいってしまうから、とんでもない5, 6年生が出てきてしまう。

親も自分の子を守るしかなくなって、他を攻撃するしかなくなってしまふことが起きている。そういうところで傷ついた子どもたちがそのまま大人になっていって、常にいじめられるのではないかと心配する大人にどんどんなっていく。

0才からの発達のありかたが大人になっていって、20代女子が世田谷では自殺したいという率が全国より高いということは、その子たちの小学5, 6年の頃の体験はどうだったのだろうかというのを振り返る必要につながっていく。

そこにはおそらく世田谷の文化というものが全国平均とは違う世田谷の女の子たちの周りの社会、文化というのが何かあるんだろうと思う。

いろいろなジャンルを体験してきている皆さんがこの作業を日常的に、これマルチリートメントではないのだろうか、というメガネをかけて、人権のいくつもある子どもの権利条約で、子どもたちの声を聞いているのだろうか、という作業を始めていただきたいと思うわけです。この後は今の話を聞いたうえで感想など話してもいいです。

<グループタイム20分>

★保坂区長

この下の階にいて、寄らずに帰ったというわけにはいかずやって参りました。ちょうど孫ができたばかりで0才のでいろいろ思い当たるどころ、不思議だなと思うところを思い出させてもらいましたし、10才のところではちょうど自分自身にとっての思春期ということで、スタンドバイミーの映画の世界みたいなドキドキ毎日を過ごしたことを思い出しました。

連続線上でとらえて人は大きくなっていくということは、失っていくことでもあり、得ていくことでもある。やがて人間の命の有限性に、おじいちゃん・おばあちゃんが亡くなったりいろいろなあったな、と思い出しながら参加しておりました。子ども・子育ての世田谷区のビジョンを全面的にバージョンアップしようと思えようとしていまして、柳沢さんが苦し

んでいるところです。思い切り変えようよと思っています。もちろんより子どもファーストのところに変えていけるといいと、どんどん子どもが生きづらく、子どもを産もうと思ってもなかなか難しい状態になってきているので、相当急拡大しないと間に合わないのではないかと考えております。

(武田)

最後にまとめをさせていただけたらと思います。

今日は「子どもの姿が見えるメガネを手に入れよう」という話でした。

練習だから、そんなに簡単には見えるようにはならないだろう、ただ、子どもは24時間どんな生活をしているのだろうか、その子たちの発達はどうな発達なのだろうか？という目で目の前の子どもを見るような視点はこれからもっていただけるのではないかと思うわけです。

子ども条例とか、子どもの権利条約とかにはいろいろ書いてあります。具体的に目の前のこの子はどんなことを考えているのだろうか、ということを知りたいと思った時に、今この子はどんな体を持っているのだろうか、どんな風に動かせる、自分の意思で動かせる身体を持っているのだろうか、その能力は十分に発揮できる環境があるだろうか、周りの大人たちはどんな風にこの子を制限しているだろうか、あるいはのびのびさせているだろうか、という風に身体の面で見えていき、身体が十分に発達できたら、心、感情もわくわくするだろうけれど、その体の発達を制限してしまったら、わくわくすることができない毎日になってしまう。

朝の8時半に椅子に座って、小さな机に座ったまま40分。5分か10分の休みでまた座る。小学校3年生の身体が発達していく時期にずっと座っているんです。大学生が朝9時から5時50分まで、一番筋肉がありうる年代にずっと座っている日本はこんな不健康なことではないですよ。

林業や水産業、農業があった頃はもっと動いていたのに、PCの前にずっと座っているのは身体に負担をかけている。身体の負担が心の負担になり、ウツの人がこんなに増えている、子どものまわりに見えている大人の姿は幸せそうですか？

引きこもり100万人、嘘ついている大人はたくさんいるとなると、どういう大人になったらいいと思うのでしょうか？先が見えない。憧れる人がユーチューバーぐらいしかいない、本当の意味で憧れる人が周りにいないから、これそのものが社会的マルトリートメントだろうと思っています。

世界各国いろんな国をまわりました。学校教育が大したことなくても日々の生活の中で接している大人たちが生き生きしていれば、子どもたちは学校を我慢してでも生活していける。学校を我慢した末の大人が、こういう大人ということになったら、我慢したくなくなっちゃいませんか？ 放棄したくなりませんか？そういうことが日本全国で起きているのではないかと思います。

世田谷区は5つくらいの県より多い13万5千人も子どもたちがいる中で一挙に動かすことは区長だって難しい事。自分の周りにいる子どもたちに、親だけでない第三者たちが関わっていくことでしか現実的に動かないだろう。今、区民一人一人ができるのは自分が幸せになってその姿を子どもたちに見せること。

子どもの目線で、この年齢のその子の目線で、今の社会を見られるようになること、それを見たら放っておけなくなります。こんな世界を見せておくのは嫌だと思えるようになると思います。時間がかかりますが、そっちの方向に向けて少しずつ皆が歩き始めたら、もっと子どもたちが幸せな、さっきランキング見せましたが、北欧の国が皆こんな風に成績も良ければ幸福度ランキングが大人も子どもも高い、こういう国があるんです。無理だと思うかもしれないけど、こういう国があるということは実現するという事。実現するのに何年先でしょうか？

カナダに行った時に「社会で子どもを育てる」という本を出しました。10年後に追いつけばいいと思っていましたが全然無理でした。人権の事を書きましたが全く無理でした。では、あと何年？30年から50年遅れているとカナダでもオランダでも言われました。今から先、皆さんが100才、80才、90才になった時、死ぬ前に今の日本を良くしていることができますか？出来なかったら100年後、200年後、とにかくそちらにむけて歩き始めるしかない。

他の方法に向けて歩くぐらいだったら、そちらの方向ではなく、歩みの方向は少しでもウェルビーイングで民主主義を大切にするような、そして子どもたちが学校楽しいよと言ったり、遊ぶの楽しいよと言って外にいるようなそんな世田谷を作っていきたい。

世田谷には「子ども・子育て会議」があります。他の県にはない。一番先を走る区だと思います。ここで皆さんから始めていただきたい。

脳の使い方を今からトレーニングしていただきたいと思います。

ありがとうございました。

松田) オンライン参加の方で感想言いたい人いますか？

★乳幼児の話と不登校の問題を話しました。どういう子どもたちの居場所を考えたらいいかと話しました。親も皆不安がでている。皆が生き生きと生活できるような世田谷でいてほしいと思っているところ。うまくいかない事もあるけど、そういう時でもつながれるようなサードプレイスが大事だと思います。

武田)

炭鉱に入るときにカナリアを連れていく、空気がなくなった時にカナリアが先に死ぬ。子どもたちはカナリア。子どもたちが息苦しいと言い始めているとしたら、社会の空気が苦しんだと気が付かないといけない。子どもたちに聞かせてください。大人たちが気が付かないことを聞かせてください。「おめえら」という時になにかがあるのか聞かせてくださいと、いうのが大事だと思います。

★安全管理で管理してしまう。どう突破するのか、という問題意識をもちました。

武田) 管理しないと自分の身が危なくなっている社会になっているからですね。法律で管理しなくていいと決めれば、皆が大丈夫になるらしいです。

松田) 今日の話はスピニアウトで勉強会ができるといいなと思います。子ども条例の話し合いも進んでいますが、私たちももっと勉強しないといけないな、と思います。自分の視力に合わせて勉強していけたらいいなと思いました。ありがとうございました。